

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191500032		
法人名	(株)Matsumae未来社		
事業所名	グループホームみらいの風 本館		
所在地	北海道松前郡松前町字静浦409番地4		
自己評価作成日	令和6年3月26日	評価結果市町村受理日	令和6年5月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0191500032-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年4月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ケア理念に沿って利用者様が安心・安全に暮らしていただけるようなホームを目指しております。生活リハビリ(洗濯・食器拭き・食事の支度等々)を取り入れ、全身機能低下防止 又は維持出来るよう定期的に話し合いの場を作り、利用者様にとって身体的・精神的に快適な暮らしが出来る様努めています。
また、今年度より新型コロナウイルスが第5類になりましたので個別対応にて感染対策をしながら面会を再開するなど利用者様に、精神的な安定に努めて参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は令和5年10月1日から「グループホームゆずりは・ゆずりはの里」より運営を引き継ぎ、事業所名を「グループホームみらいの風」と変更して再出発している。建物はブロック平屋建ての本館と、木造2階建ての新館一階部分を渡り廊下でつないだ2ユニットの事業所である。「グループホームみらいの風」は国道228号線より川沿いに、ゆるやかな坂道を徒歩で5分程登った、陽当たりのよい場所に位置し、すぐ側に鎮守様(浅間神社)があり、何本もの桜と雑木に囲まれた、日本の里の原風景を思わせる自然豊かな環境に静かに佇んでいる。松前町は北海道でも有数の桜の名所であり、桜はもちろんの事、梅、椿、レンギョウ等々の花が一斉に咲き誇る百花繚乱の春を迎える。利用者は職員とともに自然の変化にワクワクしながら、ゆったり穏やかに暮らしている。「グループホームみらいの風」の優れている点は家庭的な雰囲気大切にしていることである。具体的には利用者の好みや地元の旬の食材を活かした献立を作成し、正月やお盆、節氣にまつわる食文化を大切に食事作りをしている。地域の方や家族から旬の魚や野菜の差し入れがあり、春に「ヤリイカ」が届いた時は刺身を作って、「ショウガ」を薬味にして食し、皆でなじみ深い味に舌鼓を打ち、また、毎日浴槽に湯を入れ、いつでも入浴できる体制を整え、朝風呂も楽しめる様に利用者本位の支援に取り組んでいる。管理者と職員は理念である「ゆったり穏やかに、のんびり楽しく、ともに笑顔で」を実践している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(本館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念・基本理念・ケア理念を共有スペースに掲示し、常に意識するよう啓発している。	「ゆったり穏やかに、のんびり楽しく、ともに笑顔で」を主旨としたケア理念を掲げ、管理者と全職員でミーティングで話し合い、思いを一つにして、実践につなげている。また、事業所内に掲示すると共に、パンフレットにも記載して、事業所の思いを内外に伝えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス緩和・第5類に伴い、ご家族の皆様と交流を再開している。利用者様・地域の皆さんと繋がりがもてるよう、コロナ前の状態へ少しずつ努力していきたいと思う。	町内会より「松前町広報」が届けられている。また、職員は避難路の草刈り等、地域活動に積極的に参加し、地域を支える役割を担っている。近所の方からは魚や野菜のお裾分けもあり、お互い様の関係が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域には高齢者が多い為、推進委員には町内民生委員も協力してくれている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見・要望等をサービス向上に生かせるよう取り組んでいる。また、苦情や困りごとの相談や意見などを取り入れている。	町内会や行政、家族、老人クラブなど事業所に関わる方々に案内状を送付している。会議は多岐に渡る意見や感染症の流行状況(役場、町内会より)、ワクチン接種情報(事業所より)など双方向的に活発な意見交換が行われている。会議録は出席者、家族には利用者のスナップ写真を添えて送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町役場の担当者とは通達事項に不明点があれば連絡を取り、協力関係を築くように努めている。	行政の担当職員とは提出書類の作成や些細なことまで随時相談したり、指導を受けて連携を密にしている。また、空室の情報交換も頻回に行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は防犯の為、夜9時から翌朝5時まで施錠をしている。 危険を伴う状況に至った時は、職員間で話し合い、介護の力で解決できるようモニタリングしながら身体拘束をしないケアに努めている	法人主催の身体拘束廃止の研修会は毎月実施しており、会議録を作成して全職員で共有し、講師への質問や疑問も集約して回答を求める取り組みをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	テーマを『虐待』として全5回施設内研修会を実施している。外部から講師を招き、虐待行為について防止に取り組んでいる。		

グループホームみらいの風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(本館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての研修等に参加している。必要性がある場合は、即時に活用できるように努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時等は利用者やその家族等にとって分かりやすく個々の立場に立って進めている。契約内容は専門的な言葉や表現があるため、わかりやすくかみ砕いて説明し、納得を得た上で同意を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や施設面会の際などに、意見や要望などを伺っている。	家族からは運営推進会議や電話などで意見や要望を聞いている。運営推進会議の議事録に行事の際のスナップ写真を添えて送付していたが、家族の意見を取り入れて、更に日々の生活ぶりを撮った写真も同封することになっている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて意見や提案を聞く機会を設けている。また、職員から代表者や管理者へのメールでの意見交換を受け付けている。	ユニットごとのミーティングで意見や要望、購入品の話し合いをしたり、2時間程かかる入浴時のホール担当職員の人員配置について、忌憚無い意見交換をし、改善方法を模索している。日頃から代表者と管理者、職員が密にコミュニケーションを図り風通しの良い職場環境作りをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員個々の努力や実績・勤務状況を把握し、職員に役割を持ってもらい張りのある職場を目指している。職員からの要望や不満に対し出来るだけ早急に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度も感染対策のため、外部の研修に参加が難しく、内部研修が主となっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ会社で開催している研修会等で、サービス向上に向けた取り組みを心掛けている。		

グループホームみらいの風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(本館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状況を把握するよう努め、ご本人が求めている事や不安に思っていることを理解できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が不安や困っている事は何か、これまでの苦労や今までのサービス利用状況等の経緯について聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	常に利用者への支援の在り方について考慮しており、本人やご家族の思い、状況を確認し、改善に向けた支援の相談を受けるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、家族の要望を取り入れてながら、利用者を支えていける体制作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルスの影響により面会の制限をさせて頂いていたが、感染症への注意を払いつつ面会制限解除をした。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度より、2名まで15分間・マスク着用・飲食禁止と制限させて頂き、玄関ホールでの面会をしている。大切なご家族・ご友人との関係が途切れないように対応した。	受診の際は桜や小島、大島などの馴染みの景色を見て、同行した職員と会話弾ませながら、ミニドライブを楽しんでいる。家族が受診同行した時は外食をし、また、知人や友人の訪問もあり今までの関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間のトラブルを避け、職員が仲を取り持ちながら孤立させず支え合えるよう、利用者同士の関係を把握している。		

グループホームみらいの風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(本館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用の終了後も、相談があれば随時受け付けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、利用者の希望等を把握するように努めている。	職員は日常の関わりの中で、「ずっとここに居るつもり」等と本人の本心と推測される言葉を深く理解し、また、桜餅やじゃがいもの塩煮が食べたい等の思いまでも受け止めて、記録に残して全職員で共有し、思いを叶えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族から聞き取るようにしている。入居後も本人や家族から話を聞き、更に把握するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	サービス記録等を利用し、職員間で情報共有することにより、利用者の現状を把握するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議にてケアの在り方について話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	2か月ごとにモニタリングを行い、カンファレンスを開催して実態に合った介護計画を作成している。6か月を目途に見直しているが、病状の変化や新たな意向や希望があった時は、検討して現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はサービス記録に記載し、職員間で情報を共有しており、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の送迎などは本人や家族からの要望を加味し、個々の満足度を高めるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公共機関、民生委員、自警団、ボランティアの方に、安全で豊かな生活ができるように支えて頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	町立松前病院による月1回の訪問診療を利用している。また、希望がある場合は、その都度、受診支援を行っている。	利用者のほとんどは松前町立病院をかかりつけ医としている。受診同行は事業所と家族が話し合っで行い、職員が同行した時は都度家族に報告している。歯科治療は家族の同意を得ながら行い、口腔ケアは感染症の状況を考慮しながら取り組む予定である。	

グループホームみらいの風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(本館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が在籍されていた期間は行われていました。訪問診療では医師に相談、報告をし適切な受診や看護を受けられています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者とは月1回のケア会議や訪問診療を通じ連携し、利用者が入院した際には情報交換、相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関側の医師「及び看護師不足の理由から、十分な連携が取れない為、ターミナルケアは行っていないが、介護同意書を家族等と交わしている。	現在、看取りは行っていないが、利用契約時に本人と家族に対し、重度化した場合の介護方法や治療等について、本人や家族の意向を最大限に尊重することを旨とした、重度化対応に関する指針を説明している。	重度化対応指針は作成しているが、文章の中の曖昧な言い回しを、はっきりした言葉で表す様検討し、本人と家族に十分に説明した後に同意書を交わす取り組みを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを整備しており、全職員を対象に消防より訓練を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員参加のもと、消防訓練(消火・通報・避難)を行っており、地域との協力体制を築いている。	定期的に消防署や地域の方々、防災用品会社が参加して、夜間の火災を想定した避難訓練を実施している。水や食料品等の備蓄品は5日分程用意し、おむつや毛布も備えている。屋外に備え付けの発電機を常置している。洪水などの自然災害が想定される時は、法人本部より大型車を借りて早めに避難準備をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症状に配慮した言葉遣いに気を付け、プライドを傷つけないように対応している。特に入浴・排泄時には十分に配慮し尊厳の維持を心掛けている。	日頃から言葉遣いや接遇、書類の管理等、利用者のプライバシー保護の徹底と人格を尊重したケアサービスに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いを汲み取り、分かりやすい言葉で説明し、自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはおおよそ決まっているが、利用者のペースを大切にし、本人と他の利用者が共同生活を穏やかに過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	週2回の入浴や、本人の希望に沿った身だしなみが出来るように支援している。理容は訪問サービスを希望の利用者に実施している。		

グループホームみらいの風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(本館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは、出来る限り職員と共同で行っている。また、利用者の嗜好を考慮しながら提供している。	食事は地産の旬の食材を活かして、職員が1週間分ずつ利用者の好みを取り入れた献立を作成している。魚や野菜のお裾分けや家庭菜園で収穫したトマトやキュウリは食卓を華やかで豊かにしている。雑祭や彼岸など節気を意識した食事作りをし、正月は鯨汁を作るなど、地元の食文化を大切に守っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じてサービス記録により管理している。一人ひとりの状態に合わせた支援を実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しており、毎日全員の義歯消毒も行なっている。また、月1回程度、義歯洗浄機での洗浄も行っており、口腔ケアに努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターンを把握し、声掛けにてトイレ誘導を行っている。排泄の失敗やオムツ交換を削減する様支援している。	トイレでの排泄を大切に考えており、両ユニット合わせて、6人程の利用者は昼夜ともに自立している。声かけ誘導や時間誘導など、利用者にあった方法で排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ薬に頼らないよう、食事・水分・運動に気をつけて支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2回、個別に日時を決めているが、利用者の体調や気分により無理強いせず、柔軟に変更が出来るように取り組んでいる。	毎日浴槽に湯を入れて、希望する時に入浴できる体制を整え、週に複数回、朝風呂気分を味わいながら午前中に入浴している。風呂では職員との会話も弾み、楽しい一時となっている。湯上がりにはスポーツドリンクなどで水分補給をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調を考慮し、その時々に応じて休息したり眠れるようにしている。また、睡眠導入剤は出来るだけ利用しないようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は、誤飲がないよう個人別のラックを使用している。また、訪問診療の際に個々の状況を医師に説明している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事や趣味を活かした場を設け、楽しく笑顔に過ごせるよう努めている。		

グループホームみらいの風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(本館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	まだ新型コロナウイルス感染やインフルエンザウィルスの心配がある為、通院以外のご家族との外出は控えている。	天候や気温、体調を考慮して、日常的に日光浴を兼ねて事業所周辺のゆるやかな坂道をゆっくり散歩している。また、受診の際は馴染みの景色を見ながら、束の間のドライブを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しい方が多いが、少額金額を持っている方もいる。また、預り金は本人や家族の希望により、いつでも利用可能な状態にある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により電話は自由に利用できる。また、手紙のやり取りが出来るようにも支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は明るく、常に清潔である様日々の掃除は欠かさず行っている。また、季節のや行事の飾り付けを行い、居心地の良い環境作りを行っている。	両ユニットとも居間兼食堂は大きな窓から陽がたっぷり入り、複数のソファと一人掛けの椅子が程良く配置され、お気に入りの場所で寛ぎながら、窓越しに見る景色の変化を楽しみながら、ゆったりと過ごしている。事業所内は湿度や気温も、高齢者に合わせて適切に管理されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外の景色を眺めたり、一人で休める空間を作っている。一人で過ごしたり、気の合った利用者同士でくつろげるスペースとなっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族と相談し、利用者の使い慣れた物や位牌などを持ち込めるようにしている。また、自作の作品を飾り工夫をしている。	居室にはロッカーが備えてあるが、そのほかに使い慣れた家具や衣装ケースを活用して、室内をすっきりと整頓し、持ち込んだテレビ、思い出の品、退去者から譲り受けた電動ベッド等は動線を考慮に入れながら配置して、居心地のよい寛げる部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下、浴室、玄関、個々の居室には必要に応じて手すりを配置している。また、トイレと浴室には呼び出し用のプザーを設置し、安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるよう、配慮している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191500032		
法人名	(株)Matsumae未来社		
事業所名	グループホームみらいの風 新館		
所在地	北海道松前郡松前町字静浦409番地4		
自己評価作成日	令和6年3月26日	評価結果市町村受理日	令和6年5月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ケア理念に沿って利用者様が安心・安全に暮らしていただけるようなホームを目指しております。生活リハビリ(洗濯・食器拭き・食事の支度等々)を取り入れ、全身機能低下防止 又は維持出来るよう定期的に話し合いの場を作り、利用者様にとって身体的・精神的に快適な暮らしが出来る様努めています。
また、今年度より新型コロナウイルスが第5類になりましたので個別対応にて感染対策をしながら面会を再開するなど利用者様に、精神的な安定に努めて参ります。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoSyCd=0191500032-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年4月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(新館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念・基本理念・ケア理念を共有スペースに掲示し、常に意識するよう啓発している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス緩和・第5類に伴い、ご家族の皆様と交流を再開している。利用者様・地域の皆さんと繋がりがもてるよう、コロナ前の状態へ少しづつ努力していきたいと思う。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域には高齢者が多い為、推進委員には町内民生委員も協力してくれている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見・要望等をサービス向上に生かせるよう取り組んでいる。また、苦情や困りごとの相談や意見などを取り入れている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町役場の担当者とは通達事項に不明点があれば連絡を取り、協力関係を築くように努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は防犯の為、夜9時から翌朝5時まで施錠をしている。 危険を伴う状況に至った時は、職員間で話し合い、介護の力で解決できるようモニタリングしながら身体拘束をしないケアに努めている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	テーマを『虐待』として全5回施設内研修会を実施している。外部から講師を招き、虐待行為について防止に取り組んでいる。		

グループホームみらいの風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(新館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての研修等に参加している。必要がある場合は、即時に活用できるように努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時等は利用者やその家族等にとって分かりやすく個々の立場に立って進めている。契約内容は専門的な言葉や表現があるため、わかりやすくかみ砕いて説明し、納得を得た上で同意を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や施設面会の際などに、意見や要望などを伺っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて意見や提案を聞く機会を設けている。また、職員から代表者や管理者へのメールでの意見交換を受け付けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員個々の努力や実績・勤務状況を把握し、職員に役割を持ってもらい張りのある職場を目指している。職員からの要望や不満に対し出来るだけ早急に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度も感染対策のため、外部の研修に参加が難しく、内部研修が主となっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ会社で開催している研修会等で、サービス向上に向けた取り組みを心掛けている。		

グループホームみらいの風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(新館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状況を把握するよう努め、ご本人が求めている事や不安に思っていることを理解できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が不安や困っている事は何か、これまでの苦労や今までのサービス利用状況等の経緯について聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	常に利用者への支援の在り方について考慮しており、本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の相談を受けるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、家族の要望を取り入れてながら、利用者を支えていける体制作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルスの影響により面会の制限をさせて頂いていたが、感染症への注意を払いつつ面会制限解除をした。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度より、2名まで15分間・マスク着用・飲食禁止と制限させて頂き、玄関ホールでの面会をしている。大切なご家族・ご友人との関係が途切れないように対応した。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間のトラブルを避け、職員が仲を取り持ちながら孤立させず支え合えるよう、利用者同士の関係を把握している。		

グループホームみらいの風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(新館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用の終了後も、相談があれば随時受け付けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、利用者の希望等を把握するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族から聞き取るようにしている。入居後も本人や家族から話を聞き、更に把握するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	サービス記録等を利用し、職員間で情報共有することにより、利用者の現状を把握するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議にてケアの在り方について話し合い、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はサービス記録に記載し、職員間で情報を共有しており、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の送迎などは本人や家族からの要望を加味し、個々の満足度を高めるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公共機関、民生委員、自警団、ボランティアの方に、安全で豊かな生活ができるように支えて頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	町立松前病院による月1回の訪問診療を利用して、また、希望がある場合は、その都度、受診支援を行っている。		

グループホームみらいの風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(新館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が在籍されていた期間には行われていました。訪問診療では医師に相談、報告をし適切な受診や看護を受けられています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者とは月1回のケア会議や訪問診療を通じ連携し、利用者が入院した際には情報交換、相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関側の医師「及び看護師不足の理由から、十分な連携が取れない為、ターミナルケアは行っていないが、介護同意書を家族等と交わしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを整備しており、全職員を対象に消防より訓練を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員参加のもと、消防訓練(消火・通報・避難)を行っており、地域との協力体制を築いている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症状に配慮した言葉遣いに気を付け、プライドを傷つけないように対応している。特に入浴・排泄時には十分に配慮し尊厳の維持を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いを汲み取り、分かりやすい言葉で説明し、自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはおおよそ決まっているが、利用者のペースを大切に、本人と他の利用者が共同生活を穏やかに過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	週2回の入浴や、本人の希望に沿った身だしなみが出来るように支援している。理容は訪問サービスを希望の利用者に実施している。		

グループホームみらいの風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(新館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは、出来る限り職員と共同で行っている。また、利用者の嗜好を考慮しながら提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じてサービス記録により管理している。一人ひとりの状態に合わせた支援を実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しており、毎日全員の義歯消毒も行なっている。また、月1回程度、義歯洗浄機での洗浄も行っており、口腔ケアに努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターンを把握し、声掛けにてトイレ誘導を行っている。排泄の失敗やオムツ交換を削減する様支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ薬に頼らないよう、食事・水分・運動に気をつけて支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2回、個別に日時を決めているが、利用者の体調や気分により無理強いせず、柔軟に変更が出来るように取り組んでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調を考慮し、その時々に応じて休息したり眠れるようにしている。また、睡眠導入剤は出来るだけ利用しないようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は、誤飲がないよう個人別のラックを使用している。また、訪問診療の際に個々の状況を医師に説明している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事や趣味を活かした場を設け、楽しく笑顔に過ごせるよう努めている。		

グループホームみらいの風

自己評価	外部評価	項目	自己評価(新館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	まだ新型コロナウイルス感染やインフルエンザウィルスの心配がある為、通院以外のご家族との外出は控えている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しい方が多いが、少額金額を持っている方もいる。また、預り金は本人や家族の希望により、いつでも利用可能な状態にある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により電話は自由に利用できる。また、手紙のやり取りが出来るようにも支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は明るく、常に清潔である様日々の掃除は欠かさず行っている。また、季節のや行事の飾り付けを行い、居心地の良い環境作りを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外の景色を眺めたり、一人で休める空間を作っている。一人で過ごしたり、気の合った利用者同士でくつろげるスペースとなっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族と相談し、利用者の使い慣れた物や位牌などを持ち込めるようにしている。また、自作の作品を飾り工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下、浴室、玄関、個々の居室には必要に応じて手すりを配置している。また、トイレと浴室には呼び出し用のプザーを設置し、安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるよう、配慮している。		

目標達成計画

事業所名 グループホームみらいの風

作成日：令和 6年 3月 28日

市町村受理日：令和 6年 5月 8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	グループ会社施設へ利用者様と訪問できてない。	グループ会社施設の利用者様や介護職員とアクティビティを行い交流を楽しんでいただく。	グループ会社の施設職員と話し合い、お互いに刺激のあるイベント交流を行える内容を考える。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。